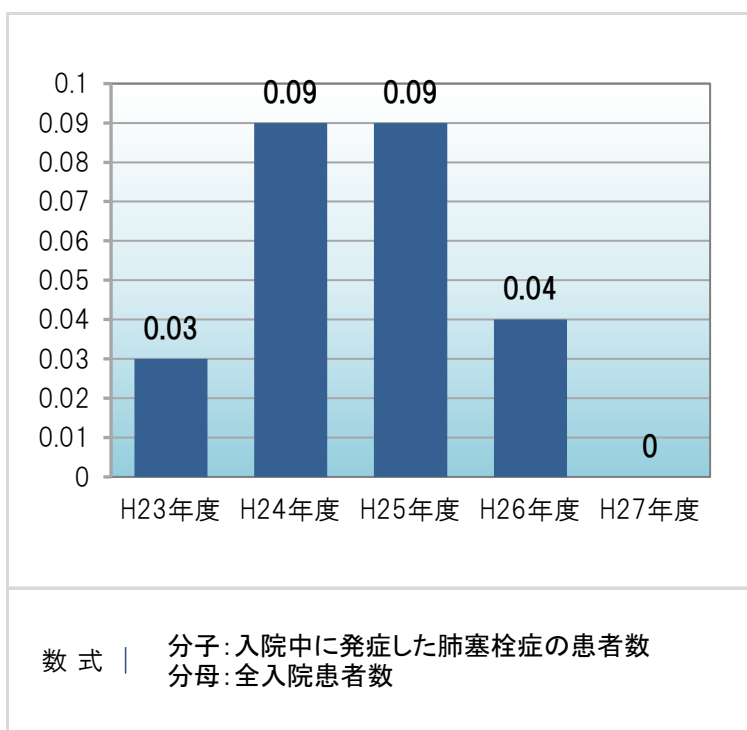


23 手術あり患者の肺塞栓症の発生率

● 項目の解説

肺塞栓症は血栓(血のかたまり)が肺動脈に詰まり、呼吸困難や胸痛を引き起こす疾患で、程度によっては死に至る場合もあります。長期臥床や骨盤部の手術後に発症することが多く、入院中においては適切な診療により、かなりの部分が予防可能です。

● 当院の実績



単 位 | %

期 間 | 年間

備考・コメント

肺塞栓症は長期臥床や骨盤部の手術後に発症することが多い疾患です。弾性ストッキングの使用などの予防対策を適切に実施しています。

平成27年度国立大学病院平均値 0.21%

● 定 義

肺塞栓症リスクの高い患者に対する、肺塞栓症の発生率(%)です。